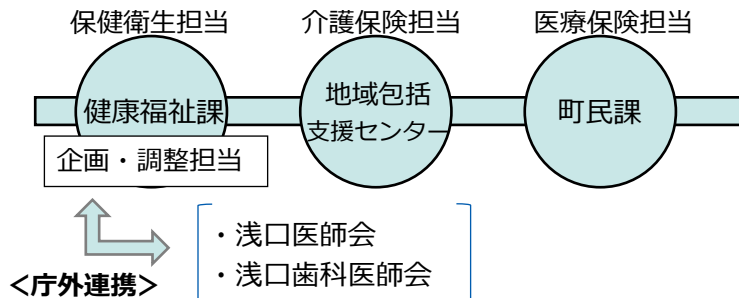


# 岡山県里庄町 一複数の取組を横断的に捉えた一体的実施事業の展開一

## 町の概況(令和7年4月1時点)

人口	10,791人
高齢化率	31.84%
後期被保険者数	2,070人
日常生活圏域数	1圏域

## 実施体制



## 取組の経緯

### 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施開始年度：令和5年度

令和4年度後期高齢者の質問票の分析から固いものが食べにくいと感じている人数、お茶や汁物でむせる人数が増加傾向にあると感じ、保健事業と介護予防を一体的に口腔機能低下の予防に取り組む必要があると考えた。

※令和6年度からは専門職等の職員(理学療法士、管理栄養士等)の体制が整い、**ハイリスクアプローチ6項目、ポピュレーションアプローチ2項目**の取組を実施している。企画・調整を担当する医療専門職(保健師)が中心となり、医療・保健・介護・福祉の事業をつなげ一体的に捉えて取組を展開している。

## 企画調整・関係機関との連携

### ● 庁内連携

毎月1回、健康福祉課、地域包括支援センター、町民課の職員が参集し、庁内連携会議を行っている。企画調整担当である健康福祉課が**一体的な実施の事業項目などを決めた年次計画を定め**、状況報告や情報交換を行っている。

### ● 医療関係団体等との連携

- 歯科医師会  
⇒口腔フレイルについて講演会を依頼する等、口腔フレイルの知識の普及啓発について連携して取組を実施している。
- 歯科衛生士  
⇒通いの場での歯科健康教育や口腔ハイリスク者への個別指導を依頼する等、随時連携を図っている。

## ハイリスクアプローチ

常に、地域包括支援センター等の関係機関と情報を共有し、協働しながら取組を進めている。

### ● 低栄養

保健師、管理栄養士が対象者へ3~6か月に2~3回の面接及び訪問を実施。面談の初回は原則健診当日に抽出された対象者に対して行う。

### ● 口腔

身体状況、歯科医療受診状況、口腔の衛生状況等をアセスメントし、抽出されたハイリスク者に対して、歯科衛生士による個別指導(1クール3回)を行う。

また、面談時には毎回、本人の希望に応じて歯科衛生士とともに具体的かつ実現可能な目標を立案する。

### ● 身体的フレイル

保健師、管理栄養士が6か月間に1~3回の訪問または電話による保健指導・栄養指導を実施。また、必要に応じて理学療法士からの支援も行う。

- 重症化予防(糖尿病性腎症)
- 重症化予防(その他生活習慣病)
- 健康状態不明者対策

## ポピュレーションアプローチ

ポピュレーションアプローチからハイリスクアプローチへのつなぎ・連動性を意識している。

- 健康教育・健康相談及びフレイル状態の把握の取組を同時に実施

### ①【通いの場】

・一つの通いの場に年2回程度介入する。体力測定(握力・TUG・片足立ち)、口腔機能測定、体組成測定(体重・筋肉量等)及び質問票の取得を行う。全体に向けて質問票を解説しながら、フレイル予防について健康教育を実施する。個別に介入すべきハイリスク者が抽出された場合は、ハイリスクアプローチにつなげる。

### ②【フレイル・体力測定会】

・フレイル・体力測定会を年2回程度開催する。質問票、体力測定(握力・口腔機能測定・立ち上がりテスト・片足立ち・指輪っかテスト)、体組成測定結果の取得を行い、結果を本人へフィードバックするとともに、健康相談を行う。個別に介入すべきハイリスク者が抽出された場合は、ハイリスクアプローチへつなげる。

# 岡山県里庄町

## 事業結果と評価概要（令和6年度結果）

	取組区分	計画時点の 対象者数	介入者数 (確定)	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスク アプローチ	低栄養	20	21	①体重の維持・改善した割合 ②BMIの改善	①20人の目標達成（95.2%） ②8人の数値改善（38.1%）
	口腔	12	7	①受診状況の変化 ②質問票（④咀嚼or⑤嚥下）の改善	①6人の受診を確認（85.7%） ②3人の質問項目の改善（42.9%）
	身体的フレイル	30	13	①質問票（①健康状態「4,5」及び⑦歩行速度or ⑦歩行速度⑧転倒）の改善 ②要介護認定の状況（1年後） ③質問票（⑥体重減少or⑧転倒）の改善	①7人の質問項目の改善（53.8%） ②要介護認定者1名(R6年度) ③3人の質問項目の改善（23.1%）
	重症化予防（糖尿病 性腎症）	5	3	①受診状況の変化 ②HbA1cの改善	①3人の受診を確認（100.0%） ②3人の数値改善（100.0%）
	重症化予防（その他 生活習慣病）	30	13	SBP $\geq$ 160またはDBP $\geq$ 100の者の割合の改善	介入前と比較して7人改善
	健康状態不明者対策	25	22	①健診受診者数の割合 ②適切なサービス等に接続した者の割合	①3人の受診を確認（13.6%） ②3人の接続を確認（13.6%）
	取組区分	実施した 通いの場	参加者数 (確定)	状況（評価結果）	
ポピュレー ション アプローチ	健康相談・健康教育	7	752	39回実施し、計画時点の参加者数350人と比較して、増加	
	フレイル状態の把握	7	404	26回実施し、計画時点の参加者数200人と比較して、増加	

## 課題・今後の展望

- 一体的実施事業を進める中で、低栄養の対象者の中には、口腔機能の低下や身体的フレイルなど、複数の課題を同時に抱えているケースが一定数見られ、今後はより一層、庁内の関係部署間の連携強化に加え、医療・歯科医療・介護・地域団体など多様な関係機関と連携し、横断的かつ柔軟に対応できる体制づくりが求められる。